

授業科目 関係法規・制度

履修学年 1年・2年	時間数 30	必選区分 必修	講師 瀬戸
科目の概要	美容師法を中心に、美容の業務に関係の深い法令の内容を理解し、公衆衛生を担う美容師の社会的責任を学びます。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1	法制度の概要	社会生活における法の役割（人と社会生活）	
	法制度の概要	社会生活における法の役割（法とは何か）	
2	法制度の概要	法の形式（憲法と日本の法令体系・条約）	
3	法制度の概要	法の形式（法律・命令・自治法規）	
4	法制度の概要	衛生法規の概要（衛生法規の意義）	
	法制度の概要	衛生法規の概要（衛生法規の分類と生活衛生法規）	
	法制度の概要	理容師法・美容師法と附属法令	
5	衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史（行政とは何か）	
	衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史（衛生行政の意義）	
	衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史（我が国における衛生行政の歴史）	
6	衛生行政の概要	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容（衛生行政の分類）	
	衛生行政の概要	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容（生活衛生行政）	
7	衛生行政の概要	衛生行政を担う行政機関（一般衛生行政の仕組み・厚生労働省の役割）	
8	衛生行政の概要	衛生行政を担う行政機関（都道府県及び市町村の役割・保健所の役割と機構）	
9	理容師法・美容師法	目的・用語の定義（理容・美容）	
10	理容師法・美容師法	用語の定義（理容師・美容師・理容所・美容所）	
11	理容師法・美容師法	人（理容師・美容師）に関する規定（概説、養成施設の入所資格、養成施設、試験）	
	理容師法・美容師法	人（理容師・美容師）に関する規定（免許と登録、理容師・美容師の義務）	
12	理容師法・美容師法	人（理容師・美容師）に関する規定（業務停止、免許取消及び再免許）	
	理容師法・美容師法	人（理容師・美容師）に関する規定（管理理容師・管理美容師）	
13	理容師法・美容師法	施設（理容所・美容所）に関する規定（概説・理容所・美容所の開設）	
	理容師法・美容師法	施設（理容所・美容所）に関する規定（開設者の講ずべき衛生措置）	
14	理容師法・美容師法	施設（理容所・美容所）に関する規定（理容所・美容所以外での業務）	
15	理容師法・美容師法	立入検査と環境衛生監視員	
	理容師法・美容師法	違反者等に対する行政処分（違反者等に対する行政処分）	
16	理容師法・美容師法	違反者等に対する行政処分（不利益処分を行う場合の手続き）	
	理容師法・美容師法	違反者等に対する行政処分（違法または不当な処分等についての審査請求）	
17	理容師法・美容師法	罰則（罰則について）	
18	理容師法・美容師法	罰則（理容師法・美容師法の罰則）	
19～22	関連法規	理容業・美容業の運営・衛生・消費者保護に関連する法律	
23～24	参考資料	理容師法・美容師法の構成・歴史	
25～26	まとめ	法制度の概要、衛生行政の概要	
27～28	まとめ	理容師法・美容師法	
29～30	まとめ	関連法規・まとめ	
達成目標	社会で行われているさまざまな法律行為を理解する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする（国家試験対象科目）。その他の科目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科科目の区分ごとに、その教科科目の70%以上（実習を伴う教科科目は80%以上）出席していることが基準となる。		

授業科目 公衆・環境衛生

履修学年	時間数	必選区分	講師
1年・2年	45	必修	池堂
科目の概要	公衆衛生の意義について理解するとともに、生活・美容業とどのように結びつくかを理解します。環境衛生の意義と内容を理解し、美容所で特に注意すべき事項について理解します。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1～2	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の意義と課題)	
3	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の発展の歴史① 欧米の公衆衛生の歩み)	
4	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の発展の歴史② 我が国の公衆衛生の歩み)	
5	公衆衛生	公衆衛生の概要(公衆衛生の発展の歴史③ 消毒法の歴史)	
6	公衆衛生	公衆衛生の概要(理容師・美容師と公衆衛生① 歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生)	
7	公衆衛生	公衆衛生の概要(理容師・美容師と公衆衛生② 公衆衛生と理容師・美容師)	
8	公衆衛生	公衆衛生の概要(保健所と理容業・美容業)	
9～10	公衆衛生	保健(母子保健)	
11～17	公衆衛生	保健(成人・高齢者保健)	
18	公衆衛生	保健(精神保健)	
19	環境衛生	環境衛生の概要(環境衛生の内容)	
20	環境衛生	環境衛生の概要(環境衛生の目的と意義)	
	環境衛生	環境衛生の概要(環境衛生活動)	
21	環境衛生	空気環境(空気と健康)	
22	環境衛生	空気環境(温度、湿度、気流(風)と健康)	
23	環境衛生	衣服・住居の衛生(衣服の衛生)	
24	環境衛生	衣服・住居の衛生(住居の衛生)	
25	環境衛生	上・下水道と廃棄物(上水道)	
26	環境衛生	上・下水道と廃棄物(下水道)	
27	環境衛生	上・下水道と廃棄物(廃棄物)	
28	環境衛生	衛生害虫とネズミ(衛生害虫)	
29	環境衛生	衛生害虫とネズミ(ネズミ)	
30	環境衛生	環境保全(水質汚濁)	
31	公衆衛生まとめ	公衆衛生の概要(公衆衛生の意義と課題)	
32	公衆衛生まとめ	公衆衛生の概要(公衆衛生発展の歴史)	
33	公衆衛生まとめ	公衆衛生の概要(公衆衛生発展の歴史、理容師・美容師と公衆衛生)	
34	公衆衛生まとめ	公衆衛生の概要(理容師・美容師と公衆衛生、保健所と理容業・美容業)	
35	公衆衛生まとめ	保健(母子保健)	
36～39	公衆衛生まとめ	保健(成人・高齢者保健)	
40	公衆衛生・環境衛生まとめ	保健(精神保健)、環境衛生(環境衛生の概要)	
41	環境衛生まとめ	環境衛生(環境衛生の概要、空気環境)	
42	環境衛生まとめ	環境衛生(空気環境、衣服・住居の環境)	
43	環境衛生まとめ	環境衛生(衣服・住居の環境、上・下水道と廃棄物)	
44	環境衛生まとめ	環境衛生(上・下水道と廃棄物)	
45	環境衛生まとめ	環境衛生(衛生害虫とネズミ、環境保全)	
達成目標	衛生管理における公衆・環境衛生について理解する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象課目)。その他の課目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科課目の区分ごとに、その教科課目の70%以上(実習を伴う教科課目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 感染症・消毒法

履修学年 1年・2年	時間数 45	必選区分 必修	講師 礼野
科目の概要	美容師として、衛生上の危害を防止するための知能、技能を身につける必要がある。感染症についての的確な知識、技能を会得することが美容師の条件である。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1	感染症の総論	感染症発見の歴史	
2	感染症の総論	感染症と法律	
3	感染症の総論	感染症の分類	
4	感染症の総論	微生物の種類 微生物の形と大きさ	
5	感染症の総論	微生物の構造 微生物の増殖と環境の影響	
6	感染症の総論	微生物の病原性と人体の感受性 汚染感染及び発病	
7	感染症の総論	常在細菌叢 免疫と予防接種	
8	感染症の総論	感染症発生の要因 感染症予防の3原則	
9	感染症の各論	理容・美容と感染症	
10	感染症の各論	空気・飛沫を介して感染する感染症	
11	感染症の各論	飲食物を介して感染する感染症	
12	感染症の各論	血液等を介して感染する感染症	
13	感染症の各論	動物・節足動物を介して感染する感染症	
14	感染症の各論	標準予防策 咳のある客への対応	
15	感染症の各論	病変の皮膚をもつ客への対応 嘔吐をした客への対応	
16	消毒法総論	病原微生物と非病原微生物 消毒の原理	
17	消毒法総論	汚染、感染、発病と消毒の意義 殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義	
18	消毒法総論	理容・美容の業務と消毒の関係 消毒法と適用上の注意	
19	消毒法各論	理学的消毒法	
20	消毒法各論	化学的消毒法	
21	消毒法各論	すぐれた消毒法とその実施上の注意	
22	消毒法実習	各種消毒薬	
23	消毒法実習	理容所・美容所の消毒の実際	
24	消毒法実習	理容所・美容所の消毒法の実際	
25	衛生管理の実践例	理容所及び美容所における衛生管理要領	
26	衛生管理の実践例	理・美容所の自主管理点検表	
27	感染症	感染症の総合復習	
28	衛生管理技術	消毒法の総合復習	
29	感染症・消毒法	感染症・消毒法の総合復習	
30～45	感染症・消毒法	国家試験過去問を解く	
達成目標	衛生管理における感染症と消毒法について理解する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象科目)。その他の科目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科科目の区分ごとに、その教科科目の70%以上(実習を伴う教科科目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 保健(人体の構造及び機能)

履修学年	時間数	必選区分	講師
1年・2年	45	必修	瀬口
科目の概要	美容師は人体に直接触れる職業であるため、頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造(解剖学)、機能(生理学)について学ぶ必要があります。また、皮膚や毛髪に関する深い理解を得るため、皮膚やその付属器官についても詳細に学びます。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1	体表解剖学	人体各部の名称	
	体表解剖学	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	
2	骨格器系	骨の種類と構造	
3	骨格器系	骨の連結	
4	骨格器系	骨格器系とそのはたらき	
5	筋系	筋の種類とその特徴	
6	筋系	主な骨格筋とそのはたらき	
7	筋系	表情筋と表情運動	
8	筋系	理容・美容の作業と筋疲労	
9	神経系	神経系の成り立ち	
10	神経系	中枢神経系とそのはたらき	
11	神経系	末梢神経系とそのはたらき	
12	感覚器系	視覚	
13	感覚器系	聴覚	
14	感覚器系	平衡感覚	
15	感覚器系	味覚	
16	感覚器系	嗅覚	
17	感覚器系	皮膚感覚	
18	血液・循環器系	血液のあらまし	
19	血液・循環器系	血液循環の仕組み	
20	血液・循環器系	血液の循環経路	
21	血液・循環器系	心臓と血液のはたらき	
22	血液・循環器系	リンパ管系の仕組みとはたらき	
23	呼吸器系	呼吸器系のあらまし	
24	呼吸器系	気道	
25	呼吸器系	肺の仕組みとガス交換	
26	呼吸器系	呼吸運動	
27	消化器系	消化器系のあらまし	
28	消化器系	消化管の仕組み	
29	消化器系	消化管のはたらき	
30	消化器系	消化と物質代謝	
31～33	まとめ	体表解剖学、骨格器系	
34～36	まとめ	筋系、神経系	
37～39	まとめ	感覚器系、血液・循環器系	
40～42	まとめ	呼吸器系、消化器系	
43～45	まとめ	総まとめ	
達成目標	人体の構造と機能について具体的な知識を持ち、人々の精神的、社会的健康に貢献できる。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象科目)。その他の科目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科科目の区分ごとに、その教科科目の70%以上(実習を伴う教科科目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 保健(皮膚科学)

履修学年	時間数	必選区分	講師
1年・2年	45	必修	泉
科目の概要	美容師は人体に直接触れる職業であるため、頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造(解剖学)、機能(生理学)について学ぶ必要があります。また、皮膚や毛髪に関する深い理解を得るため、皮膚やその付属器官についても詳細に学びます。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1～3	皮膚の構造	皮膚の表面、皮膚の断面、表皮	
4～6	皮膚の構造	表皮と真皮の境、真皮、皮下組織、皮膚の部位差	
7～9	皮膚付属器官の構造	毛、脂腺、汗腺	
10～12	皮膚付属器官の構造	爪	
	皮膚の循環器系と神経系	皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経	
13～15	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護作用、体温調節作用、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄作用	
16～18	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	呼吸作用、吸収作用、貯蔵作用、免疫・解毒・排除作用、再生作用、毛のはたらき、爪のはたらき	
19～21	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚とし好品、皮膚と体内病変、皮膚の水分と脂の状態	
22～24	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚・付属器官とホルモン、皮膚の保護と手入れ、毛の保護と手入れ、爪の保護と手入れ	
	皮膚と皮膚付属器官の保健	子どものおしゃれによる皮膚トラブル	
25～27	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因、皮膚疾患の治療法、皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹	
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	口唇の疾患、温熱・寒冷による皮膚障害、角化異常による皮膚疾患、色素異常による皮膚疾患	
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	血管腫、脂腺母斑	
28～30	皮膚と皮膚付属器官の疾患	下肢静脈瘤、分泌異常による皮膚疾患、化膿菌による皮膚疾患、ウイルスによる皮膚疾患	
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	真菌による皮膚疾患、衛生害虫による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患	
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の腫瘍	
31～33	まとめ	皮膚の構造	
34～36	まとめ	皮膚付属器官の構造、皮膚の循環器系と神経系	
37～39	まとめ	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	
40～42	まとめ	皮膚と皮膚付属器官の保健	
43～45	まとめ	皮膚と皮膚付属器官の疾患	
達成目標	人体の構造と機能について具体的な知識を持ち、人々の精神的、社会的健康に貢献できる。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象課目)。その他の課目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科課目の区分ごとに、その教科課目の70%以上(実習を伴う教科課目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 香粧品化学

履修学年 1年・2年	時間数 60	必選区分 必修	講師 馬田
科目の概要	美容業において使用する器具や香粧品は、使用方法を誤ると人体に有害に働くこともあります。そこで香粧品化学では正しく、安全に取り扱うために必要な知識を学びます。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1	香粧品概論	香粧品の社会的意義と品質特性(香粧品の社会的意義)	
2	香粧品概論	香粧品の社会的意義と品質特性(香粧品の品質と必要条件)	
	香粧品概論	香粧品の規制(香粧品の定義、香粧品の製造販売の規制)	
3	香粧品概論	香粧品の規制(香粧品の品質等の規制、表示・広告の規制)	
	香粧品概論	香粧品の安定性と取扱い上の注意(香粧品の安定性、香粧品の経時変化)	
	香粧品概論	香粧品の安定性と取扱い上の注意(香粧品の使用上、取り扱い上の注意)	
4	香粧品概論	香粧品と安全性(香粧品と安全性、表示成分と安全性、香粧品によるトラブル)	
5	香粧品用原料	香粧品の対象となる人体各部の性状(香粧品の種類と機能、皮膚と水)	
6	香粧品用原料	香粧品の対象となる人体各部の性状(頭皮や毛髪の健康な状態、爪の性状)	
	香粧品用原料	香粧品の対象となる人体各部の性状(まぶたや口唇の性状、香粧品のなりたち)	
7	香粧品用原料	水性原料(水、エタノール)	
	香粧品用原料	油性原料(油脂、ロウ類、炭化水素)	
8	香粧品用原料	油性原料(その他の油性原料)	
9	香粧品用原料	油性原料(油性原料の機能)	
10	香粧品用原料	界面活性剤(界面活性剤の基本的性質)	
11	香粧品用原料	界面活性剤(界面活性剤の種類、界面活性剤の香粧品への応用)	
12	香粧品用原料	高分子化合物(高分子化合物の種類と特性、高分子化合物の香粧品への応用)	
13	香粧品用原料	色材(色材と香粧品、無機顔料、有機合成色素、光輝性顔料、天然色素)	
14	香粧品用原料	香料(香料と香粧品、香料の種類、調合香料)	
15	香粧品用原料	その他の配合成分(香粧品原料の品質保持に用いられる配合成分)	
	香粧品用原料	その他の配合成分(香粧品配合成分があたえる機能、その他の特殊成分)	
16	香粧品用原料	ネイル・まつ毛エクステンション用材料(合成樹脂、接着剤、塗料)	
17~18	香粧品用原料	復習	
19	基礎香粧品	皮膚清浄用香粧品(皮膚の汚れと清浄作用、石けんの種類とその性質、その他の清浄剤)	
20	基礎香粧品	化粧水(化粧水の種類と機能性)	
	基礎香粧品	クリーム・乳液(クリーム・乳液の皮膚への作用、クリームの種類と機能、乳液の種類と機能)	
21	基礎香粧品	その他の基礎香粧品(シェービング用香粧品、化粧液、打粉類、パック剤)	
22	メイクアップ用香粧品	メイクアップ用香粧品の種類と剤形、ベースメイクアップ香粧品(おしろい類、ファンデーション類)	
23	メイクアップ用香粧品	ポイントメイクアップ香粧品(紅類、アイメイクアップ香粧品)	
24	メイクアップ用香粧品	ポイントメイクアップ香粧品(ネイル技術用香粧品類)	
達成目標	香粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的のほか、どのような薬品が香粧品に属するか、その定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安全性を理解する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象科目)。その他の科目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科科目の区分ごとに、その教科科目の70%以上(実習を伴う教科科目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 香粧品化学

履修学年 1年・2年	時間数 60	必選区分 必修	講師 馬田
科目の概要	美容業において使用する器具や香粧品は、使用方法を誤ると人体に有害に働くこともあります。そこで香粧品化学では正しく、安全に取り扱うために必要な知識を学びます。		
授業計画			
時間	項目		
25	頭皮・毛髪用香粧品	シャンプー剤(シャンプー剤)	
26	頭皮・毛髪用香粧品	シャンプー剤(ヘアリンス剤、ヘアトリートメント剤)	
27	頭皮・毛髪用香粧品	スタイリング剤(スタイリング剤の機能、油性スタイリング剤、液状スタイリング剤)	
	頭皮・毛髪用香粧品	スタイリング剤(高分子物質を基剤とするスタイリング剤)	
28	頭皮・毛髪用香粧品	パーマ剤(パーマの原理、パーマ剤の分類、パーマ剤第1剤、パーマ剤第2剤、パーマ剤の使用上の注意)	
29～30	頭皮・毛髪用香粧品	シャンプー剤、スタイリング剤、パーマ剤復習	
31	頭皮・毛髪用香粧品	ヘアカラー製品(ヘアカラー製品の種類と染毛メカニズム)	
	頭皮・毛髪用香粧品	ヘアカラー製品(一時染毛料、半永久染毛料、脱色剤・脱染剤)	
32	頭皮・毛髪用香粧品	ヘアカラー製品(永久染毛剤、ヘアカラー製品の使用上の注意、その他のヘアカラー製品)	
33	頭皮・毛髪用香粧品	育毛剤(脱毛の原因、育毛剤の種類と機能、育毛・養毛剤の原料)	
34	芳香製品と特殊香粧品	芳香製品(香水、オーデオロン、その他の芳香製品、芳香製品の効用と使用上の注意)	
35	芳香製品と特殊香粧品	特殊香粧品(サンケア製品、美白用香粧品、制汗・防臭剤、ニキビ用香粧品)	
36	頭皮・毛髪用香粧品	ヘアカラー製品、育毛剤復習	
	芳香製品と特殊香粧品	芳香製品、特殊香粧品復習	
37～39	香粧品の基礎化学	物質の構成・構造	
40～42	香粧品の基礎化学	溶解とコロイド、イオンと水素イオン指数(pH)	
43～45	香粧品の基礎化学	物質変化と化学反応、酸化・還元反応	
46～48	香粧品の基礎化学	タンパク質	
49～60	頭皮・毛髪用香粧品	総復習	
達成目標	香粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的のほか、どのような薬品が香粧品に属するか、その定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安全性を理解する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象科目)。その他の科目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科課目の区分ごとに、その教科課目の70%以上(実習を伴う教科課目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 文化論

履修学年	時間数	必選区分	講師
1年・2年	60	必修	前田・古本
科目の概要	美容の施術に必要な美的感覚と表現力を養うと共に、美容やファッションの文化史を学びヘアデザインに役立てます。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1	総論	理容・美容の語義、理容・美容と現代社会、文化史の中の理容・美容、理容師・美容師の仕事の中で	
2	日本の美容業の歴史	理容業・美容業の発生	
3	日本の美容業の歴史	江戸時代の理容業・美容業	
4	日本の美容業の歴史	近代の理容業・美容業	
5	日本の美容業の歴史	現代の理容業・美容業、日本の理容業・美容業の歴史年表	
6	ファッション文化史 日本編	縄文・弥生時代・古墳時代	
7	ファッション文化史 日本編	古代(飛鳥・奈良・平安時代)	
8.5	ファッション文化史 日本編	中世(平安末・鎌倉・室町・戦国時代)	
10	ファッション文化史 日本編	近世Ⅰ(戦国末・安土桃山時代)	
11.5	ファッション文化史 日本編	近世Ⅱ(江戸時代)	
13	ファッション文化史 日本編	近代(明治・大正・昭和20年まで)	
14	ファッション文化史 日本編	現代Ⅰ(1945年～1950年代)	
15	ファッション文化史 日本編	現代Ⅱ(1960年～1970年代)	
16	ファッション文化史 日本編	現代Ⅲ(1980年～1990年代)	
17	ファッション文化史 日本編	現代Ⅳ(2000年代以降)	
17.5	ファッション文化史 西洋編	古代エジプト	
18	ファッション文化史 西洋編	古代ギリシャ・ローマ	
18.5	ファッション文化史 西洋編	古代ゲルマン	
19	ファッション文化史 西洋編	中世ヨーロッパ	
19.5	ファッション文化史 西洋編	近世Ⅰ(16世紀)	
20	ファッション文化史 西洋編	近世Ⅱ(17世紀)	
20.5	ファッション文化史 西洋編	近世Ⅲ(18世紀)	
21	ファッション文化史 西洋編	近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め)	
21.5	ファッション文化史 西洋編	近代Ⅱ(19世紀)	
22	ファッション文化史 西洋編	現代Ⅰ(1910年代～1920年代)	
22.5	ファッション文化史 西洋編	現代Ⅱ(1930年代～1940年代前半)	
23	ファッション文化史 西洋編	現代Ⅲ(1940年代後半～1950年代)	
23.5	ファッション文化史 西洋編	現代Ⅳ(1960年代)	
24	ファッション文化史 西洋編	現代Ⅴ(1970年代)	
24.5	ファッション文化史 西洋編	現代Ⅵ(1980年代)	
25	ファッション文化史 西洋編	現代Ⅶ(1990年代～2010年)	
26～28	礼服の種類	和装の礼装	
29～30	礼服の種類	洋装の礼装	
31～60	総復習	国家試験対策総復習	
達成目標	お客さまが求める美しさを的確に理解するために、創造の幅を広げるエッセンスを理解できる基礎を身につける。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象課目)。その他の課目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科課目の区分ごとに、その教科課目の70%以上(実習を伴う教科課目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 運営管理

履修学年 1年・2年	時間数 30	必選区分 必修	講師 月岡
科目の概要	美容業にもとめられる接客の意義と技術を習得すると共に、経営管理や労務管理の基本を理解し、運営上の管理手法を学びます。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1	経営者の視点(経営とは・経営者とは)	経営が必要とされる理由・継続が難しい理由＝経営が必要な理由	
2	経営者の視点(経営とは・経営者とは)	経営とは何か、経営資源と経営計画	
3	経営者の視点(経営とは・経営者とは)	経営戦略、経営戦略が目指すもの 顧客に選ばれるよい店の実現	
4	経営者の視点(理容業・美容業の経営について)	業界の概要、競争変化	
5	経営者の視点(理容業・美容業の経営について)	サービスとしての理容・美容、理容業・美容業の顧客について	
6	美容業の経営(資金の管理)	資金管理の重要性、収支と損益	
7	美容業の経営(資金の管理)	会計の考え方、コストを管理する	
8	美容業の経営(資金の管理)	税金について、税金の申告	
9	人という資源 従業員としての視点(人という資源)	人という資源とは、人の能力を高める	
10	人という資源 従業員としての視点(人という資源)	人をやる気にさせるために、給与	
11	人という資源 従業員としての視点(人という資源)	待遇・福利厚生、労働者の権利	
12	人という資源 従業員としての視点(健康・安全な職場環境の実現)	健康管理の基礎、理容・美容の仕事と健康	
13	人という資源 従業員としての視点(健康・安全な職場環境の実現)	理容業・美容業に特徴的な健康課題、理容・美容の作業環境に関する健康問題	
14	人という資源 従業員としての視点(従業員としての視点から)	社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任、社会保険①公的年金	
15	人という資源 従業員としての視点(従業員としての視点から)	社会保険②医療保険、社会保険③労働保険	
16	人という資源 従業員としての視点(従業員としての視点から)	キャリアプランの重要性、仕事をするうえで考えるべきこと	
17	顧客のために(サービス・デザイン)	顧客が求める価値、価値の実態	
18	顧客のために(サービス・デザイン)	顧客満足の実現のためのシステム、最も重要な価値：人	
19	顧客のために(サービス・デザイン)	価値の多様性 顧客が求めるもの、サービスの範囲	
20	顧客のために(マーケティング)	理容業・美容業のマーケティング、マーケティング・ミックス	
21	顧客のために(マーケティング)	マーケティング・ミックスの要因 短期的要因①、②	
22	顧客のために(マーケティング)	マーケティング・ミックスの要因 長期的要因①、②	
23	顧客のために(マーケティング)	サービスのシステム化	
24	顧客のために(サービスにおける人の役割)	接客についての理解	
25	顧客のために(サービスにおける人の役割)	よい接客のために、接客の実践①	
26	顧客のために(サービスにおける人の役割)	接客の実践②、③	
27	顧客のために(サービスにおける人の役割)	接客におけるトラブルと対応、接客で発生が予想される問題	
28	顧客のために(サービスにおける人の役割)	問題を深刻化させないための対策・対処	
28	総まとめ	国家試験対策	
29～30	総まとめ	国家試験対策	
達成目標	美容業における経営や経営者について、基本的な考え方と経営の要点を理解する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象課目)。その他の課目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科課目の区分ごとに、その教科課目の70%以上(実習を伴う教科課目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 美容技術理論Ⅰ・Ⅱ

履修学年	時間数	必選区分	講師
1年・2年	150	必修	宮内(昌)・札野・笹森・泉・平林
科目の概要	美容師国家試験取得のため、美容道具の正しい取り扱い方法を学び、シャンプー、ヘアデザイン、カット、パーマ、ヘアセッティング、カラー、エステティック、ネイル、メイクアップ、日本髪、着付けなどの、美容の基礎的技術理論を身に付けます。		
時間	項目	内容	
1～9	美容技術理論を学ぶ	美容理論と美容技術・美容技術における作業姿勢・人体各部の名称	
10～15	美容用具	美容技術における用具・コーム・ブラシ・シザーズ	
16～21	美容用具	レザー・ピン類・ヘアクリップ・ロッド・ローラーヘアアイロン・ヘアドライヤー ヘアスチーマー・遠赤外線機	
22～27	シャンプーイング	シャンプーイング総論・サイドシャンプー・バックシャンプー	
28～33	シャンプーイング	リンス・コンディショナー・トリートメント・スカルプトリートメント・ヘッドスパ	
34～41	ヘアカッティング	美容とデザイン・ヘアカッティングとは・シザーズとレザーの扱い方	
42～48	ヘアカッティング	美容刃物・ヘアカッティングの正しい姿勢・ベーシック シザーズ・レザーによるカット技法	
49～54	パーマメントウエービング	パーマメントウエービングの歴史と理論・パーマ剤の分類と注意事項	
55～60	パーマメントウエービング	パーマメントウエービング技術・ワインディングのバリエーション・縮毛矯正	
61～65	ヘアセッティング	ヘアセッティングとは・ヘアパーティング・ヘアシェービング・ヘアカーリング	
66～70	ヘアセッティング	ローラーカーリング・ブローカーリング・ブロードドライ・アイロンセッティング	
71～75	ヘアセッティング	アップスタイル・ウィッグとヘアピース	
76～80	ヘアカーリング	ヘアカラーリング概論・ヘアカラーの種類・タイプ別特徴	
81～85	ヘアカーリング	色の基本・毛髪レベルとアンダートーン	
86～90	ヘアカーリング	ヘアカラーリングの道具・酸化酸性染毛剤・ヘアブリーチ	
91～94	エステティック	エステティック概念・皮膚と生理と構造・カウンセリング	
95～98	エステティック	美容におけるマッサージ理論・フェイシャルマッサージ理論 フェイシャル及びデコルテマッサージ	
99～102	エステティック	フェイシャルパック・ボディケア技術・ボディマッサージ	
103～106	ネイル技術	ネイル技術概論・技術種類・爪の構造と機能とカット形状	
107～110	ネイル技術	ネイル技術の公衆衛生・ネイルケアとカウンセリング	
111～114	ネイル技術	アーティフェイシャルネイル・手と足のマッサージ	
115～118	メイクアップ	メイクアップ概論・顔の形状学的な観察	
119～122	メイクアップ	メイクアップと色彩・皮膚の生理と構造・メイクアップの道具・スキンケア	
123～126	メイクアップ	アイブロウメイクアップ・まつ毛エクステンション	
127～130	日本髪	日本髪の由来と各部の名称・種類と特徴と調和	
131～134	日本髪	日本髪の装飾品・結髪道具	
135～138	日本髪	日本髪の結髪技術①・②日本髪の手入れとかつら	
139～142	着付けの理論と技術	着付けの目的・礼装・季節・着物の種類・帯・小物・各部の名称とたたみかた	
143～146	着付けの理論と技術	着付けの一般的な要領と技術(留袖・振袖)帯締め・帯揚げの結び方	
147～150	着付けの理論と技術	男子礼装・袴着付け技術・女子袴の着付け技術・婚礼・和装花嫁・洋装花嫁	
達成目標	美容師国家試験に合格するための美容技術理論における知識を習得し幅広く理解する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象科目)。その他の科目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科科目の区分ごとに、その教科科目の70%以上(実習を伴う教科科目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 ブラッシング・ヘッドマッサージ・ブロードライ・各種ブロッキング・ハンドマッサージ

履修学年 1年	時間数 52	必選区分 必修	講師 宮内(昌)・札幌・笹森・泉・平林
科目の概要	美容用具の使用方法、ブラッシング、ブロー、マッサージなどの基本的技術を身に付ける。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1～3	用具の取り扱い	タオルのたたみ方	
4～7	用具の取り扱い	クロスのかけ方・ブラシの持ち方	
8～10	ブラッシング	ブラシの種類と手入れ法	
11～13	ブラッシング	ブラッシング技術順序・肘と腕の高さ	
14～16	ヘッドマッサージ	技術順序(軽擦法～揉捻法)ブラッシング	
17～19	ヘッドマッサージ	技術順序(つまみ叩打法～振動法)ブラッシング	
20～22	ヘッドマッサージ	技術順序(圧迫法～運動神経侵入点)ブラッシング	
23～25	ヘッドマッサージ	立つ位置・姿勢・リズムの把握・モデルに合った力加減	
26～28	ヘッドマッサージ	頭や首、型などのツボを知る	
29～31	ブロードライ	ウィッグ使用・ブロードライ技術・毛の濡らし方	
32～34	ブロードライ	ドライヤーの扱い方	
35～37	ブロードライ	指を使ってスタイリング・スタイルを作りながら乾かす	
38～40	ブロードライ	相モデル ブラッシング技術・ヘッドマッサージ技術	
41～43	ブロードライ	相モデル ブラッシング技術・シャンプー技術・ヘッドマッサージ技術	
44～46	ハンドマッサージ	ハンドマッサージ技術順序(軽擦法・揉捻法・叩打法・振動法・圧迫法)	
47～49	ハンドマッサージ	モデルに合った力加減	
50～52	復習	サロンワーク・学園祭等に向け練習	
達成目標	基本的な知識、技術を修得し国家試験に合格するレベルに達する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象課目)。その他の課目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科課目の区分ごとに、その教科課目の70%以上(実習を伴う教科課目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 ワインディング

履修学年 1年・2年	時間数 280	必選区分 必修	講師 宮内(昌)・札幌・笹森・泉・平林
科目の概要	美容師国家試験課題ワインディングの合格に向けての技術を身に付ける。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1～10	美容実習について	美容実習を学ぶための心得・注意事項・姿勢	
11～20	美容実習について	美容用具の名称と使用方法・正しい取り扱い方法	
21～30	ブロッキング	全体のブロッキング(10ブロック)	
31～40	ブロッキング	ロッド・コームの扱いと種類・正しい位置と姿勢	
41～50	ワインディング	ワインディングとは	
51～60	ワインディング	スライスの取り方・コームの使い方・シェーブ・ステム	
61～70	ワインディング	ペーパー・ロッドの位置・巻き方・ラバーのとめかた	
71～80	ワインディング	上巻きと下巻きの基本的な巻き方	
81～90	ワインディング	センター技術基礎(ロッド15本で収める・スライス線を床と平行に巻く)	
91～100	ワインディング	ロッドの収め方・ラバーをかける位置	
101～110	ワインディング	センターパートタイムアップ	
111～120	ワインディング	センター真っすぐ巻けているか	
121～130	ワインディング	フロント技術基礎(スライスの取り方・収め方)	
131～140	ワインディング	フロント均等に巻けているか	
141～150	ワインディング	バックサイド・サイド技術基礎(スライスの取り方・ロッドのステムの収まる位置)	
151～160	ワインディング	ロッドの収め方・ラバーをかける位置	
161～170	ワインディング	バックサイドラウンドに巻けているか	
171～180	ワインディング	フロント・バックサイド・サイドタイムアップ	
181～190	ワインディング	バランス強化・タイムアップ	
191～200	ワインディング	フロントの収まり・左右シンメトリーに巻く	
201～210	ワインディング	頭の丸みを意識して巻く	
211～220	ワインディング	全頭タイムアップ強化	
221～230	ワインディング	ワインディングタイムアップ(30分)	
231～240	ワインディング	ワインディングタイムアップ(25分)	
241～250	ワインディング	ワインディングタイムアップ(20分)	
251～260	ワインディング	ワインディングタイムアップ(19分)	
261～270	ワインディング	ワインディングタイムアップ(18分)	
271～280	ワインディング	国家試験対策授業・衛生面指導	
達成目標	美容師国家試験のワインディング課題に合格する知識・技術を身に付ける。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象課目)。その他の課目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科課目の区分ごとに、その教科課目の70%以上(実習を伴う教科課目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 シャンプー・ブロー

履修学年	時間数	必選区分	講師
2年	127	必修	宮内(昌)・札幌・笹森・泉・平林
科目の概要	お客さまそれぞれの頭皮や毛髪の性状に応じて、ヘアトリートメントやマッサージなども併用し頭皮、毛髪の健康を保持することができるように技術を学ぶ。 ブロースタイリングの基本を身につける。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1～3	シャンプー技術理論	シャンプーの目的を理解する	
4～6	シャンプー技術理論	シャンプーの工程を復習する	
7～9	ブロードライ技術理論	ブロードライの目的を理解する	
10～15	シャンプー実践授業	相モデルでシャンプー技術を行う	
16～21	シャンプー実践授業	頭皮のツボを理解して実践する	
22～27	シャンプー実践授業	ヘッドマッサージを理解して実践する	
28～39	ブロードライ実践授業	ドライヤーの使い方、ブラシの使い方を習得する	
40～48	ブロードライ実践授業	カールアイロンを使ってスタイリング	
49～51	ブロードライ実践授業	ホットカーラーを使ってスタイリング	
52～57	ブロードライ実践授業	ストレートアイロンを使ってスタイリング	
58～60	ブロードライ実践授業	ハンドドライの復習をする	
61～63	ブロードライ実践授業	ブロードライの復習をする	
64～69	ブロードライ実践授業	スタイリング剤を使用して仕上げる方法を学ぶ	
70～80	総合実技	相モデルで人頭をブロードライして仕上げる	
81～86	総合実技	お客さまとカウンセリングを行いながら実施	
87～92	総合実技	髪質に合わせてシャンプー・トリートメントを選ぶ	
93～98	総合実技	頭皮に合わせたオイルを選ぶ方法を知る	
99～104	総合実技	シャンプーから仕上げまで通して実施する	
105～110	総合実技	モデルを変えて仕上げまで実施	
111～116	総合実技	時間配分を意識しながら実施する	
117～127	総合実技	全工程を復習するとともに、苦手なところを無くしていく	
達成目標	実践的な技術を身につけ、お客さまに合わせた対応ができる。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象科目)。その他の科目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科科目の区分ごとに、その教科科目の70%以上(実習を伴う教科科目は80%以上)出席していることが基準となる。		

授業科目 ウェーブ

履修学年 1年・2年	時間数 310	必選区分 必修	講師 宮内(昌)・札幌・笹森・泉・平林
科目の概要	ウェーブセッティングの基礎的な技術や知識を身につけることで今後の実践に役立てる。		
授業計画			
時間	項目	内容	
1～10	ウェーブ	用具の扱い方、ローション塗布方法を学ぶ	
11～20	ウェーブ	ウェーブ技術におけるコームの役割、指の扱い方を学ぶ	
21～30	ウェーブ	ハーフウェーブ、リッジの練習	
31～40	ウェーブ	縦づけでウェーブをつける為の基礎と手順を習得	
41～50	ウェーブ	横づけでウェーブをつける為の基礎と手順を習得	
51～60	ウェーブ	1段目馬蹄形の作成、スカルプチャーカールの作成	
61～70	ウェーブ	オールウェーブ1～3段目まで作成	
71～80	ウェーブ	オールウェーブ1～7段目まで作成	
81～90	ウェーブ	7段目のクロッキノールカールの作成	
91～100	ウェーブ	オールウェーブ7段構成の見直し、タイム内での反復練習	
101～110	ウェーブ	ダイアゴナルウェーブにてデザイン力を身につける	
111～120	ウェーブ	スキップウェーブの構成を理解する	
121～130	ウェーブ	Cカール、CCカールの反復練習	
131～140	ウェーブ	スキップウェーブの作成	
141～150	ウェーブ	スキップウェーブ7段構成をタイム内に反復練習	
151～160	ウェーブ	オールウェーブを見直す、タイムアップを目指す	
161～170	ウェーブ	別のスキップウェーブスタイルを覚える	
171～180	ウェーブ	別のスキップウェーブスタイルをタイム内に反復練習	
181～190	ウェーブ	オリジナルセッティングの構成を理解する	
191～200	ウェーブ	オリジナルセッティング1～3段目まで作成	
201～210	ウェーブ	3段目スカルプチャーカールの見直し	
211～220	ウェーブ	4段目右リフトカールの作成	
221～230	ウェーブ	5段目左リフトカールの作成	
231～240	ウェーブ	6段目メイポールカールの作成	
241～250	ウェーブ	7段目クロッキノールカールの強化	
251～260	ウェーブ	オリジナルセッティング作成と見直し	
261～270	ウェーブ	オリジナルセッティングをタイム内に反復練習	
271～280	ウェーブ	国家試験での衛生審査を覚える	
281～290	ウェーブ	国家試験での手順を学ぶ	
291～310	ウェーブ	国家試験対策授業、衛生面も含む	
達成目標	正しい技術を身につけ、国家試験に合格する知識・技術レベルに達する。		
成績評価の方法	試験を分けて学期末試験、進級試験、卒業試験とする(国家試験対象科目)。その他の科目については授業時に平常テストとして行う。学科試験は60点以上、実技試験は75点以上合格とする。不合格者は再試験を実施する。また、教科科目の区分ごとに、その教科科目の70%以上(実習を伴う教科科目は80%以上)出席していることが基準となる。		

